

# 市長の ふれあい訪問

●今回の訪問先●

カイクンカイ  
「協同組合 川口鑄物海研会」

昭和55年に「日中友好訪中視察団」の一員として川口鑄物工業組合員が参加した際、鑄物技術向上のため研修生の受け入れ要請を受けたことをきっかけに、昭和56年に「海外鑄物研修生受け入れ協議会」として発足。その後、平成3年に研修事業の一層の推進と管理体制の充実強化を目的に設立された「協同組合川口鑄物海研会」を岡村市長が訪問。中国のほかベトナムからも研修生を受け入れている活動について話を聞きました。



**市長** みなさんこんにちは。早いものでもう6月です。梅雨入りも間近になりました。今月の市長のふれあい訪問は、「協同組合川口鑄物海研会」のみなさんです。どうぞよろしくお願います。

初めに理事長の辻井さんに伺いますが、「協同組合川口鑄物海研会」は、どのような組織ですか。

**辻井** 川口市内の鑄物工場に、中国・ベトナムから研修生を受け入れ、各工場で鑄物技術を習得してもらっています。

**市長** いつ発足されたのですか。  
**辻井** 昭和56年です。父親の時代の先輩方が中国から研修生を受け入れたのが始まりです。

**市長** たしか、「日中友好訪中団」が組織され、上海の鑄物工場に行ったことがきっかけでしたね。

**辻井** そうです。当時は思い出すと、研修生は人民服を着ていましたし、生活面でも服装の面でも今とは全然違いましたね。

**市長** 時代の変化を感じますね。ところで、研修生は川口鑄物組合に所属している企業の方々が受け入れているのですか。

**櫻澤** ええ、組合員の会社にお願ひしています。

**市長** 受け入れ先は何社くらいですか。

**櫻澤** 20社です。最初は中国だけでしたが、中国の発展などもあり、もう一国受け入れる国を探していたところ、我々日本人に似た民族性を持つベトナムから受け入れるようになりました。

**市長** 現在、研修生は何人いるのですか。

**辻井** 中国人が59人、ベトナム人が74人です。

**市長** 言葉の苦労はありますか。  
**辻井** 来日する前に日本語を勉強してもらい、日本でも3カ月勉強してもらいます。また、優秀な通訳も派遣されています。

先に来日している先輩からも教えてもらっています。

**市長** ところで、鑄物は重労働で危険な作業も伴いますが大丈夫ですか。

**辻井** 中国の研修生は、本国の鑄造工場です。多少の工程などの違いはありますが、経験者なので1年研修すればすぐ戦力になります。

**市長** 伝統ある川口鑄物を外国の方に教えるのは意義のあることですね。

**櫻澤** 鑄物の街で代々継がれている技術を伝えていくのはとても意義のあることだと思います。

研修生も、知識を吸収したいという欲求が強いので、教えていても楽しいです。

**市長** まさに民間外交ですね。それでは研修生の張さん（中国）とナムさん（ベトナム）に伺います。

が日本での研修はどうですか。

**張** 日本に来て間もなく3年になります。川口はきれいな街で、みなさん親切です。研修生もみんな友達でとても楽しく過しています。

**ナム** 私は来日して2年になりますが、団体生活も楽しく、日本の人もみんな親切なのでとても楽しいです。

**市長** 日本での研修を終えたら、本国でも鑄物づくりを続けていくのですか。

**張** 帰国したら鑄物の仕事を続け、将来は自分の工場を持ちたいです。

**ナム** 日本で習ったことを生かし、ベトナムの鑄物業界の発展に貢献したいと思っています。

**市長** ところで、改めてお二人に私からお礼を申し上げたいのは、今回の東日本大震災で義援金を集めてくれたことです。ありがとうございます。

**ナム** お世話になっていて日本のために役に立ちたくてみんな



に声をかけました。  
**張** 一日も早い復興を祈っています。

**辻井** こうした日本を思う気持ちにふれ、この事業を続けてきてよかったとすごく思いました。

**市長** 本当にありがたいですね。それでは今後の抱負をお聞かせください。

**辻井** 帰国した研修生が、鑄物をきちんと続けることができるステップとして続けていきたいと思っています。

**市長** 日本と中国、ベトナム双方にとって良い関係を続けていきたいですね。ぜひこれからも頑張ってください。ありがとうございます。

ごさいました。